

2 事業の内容について

(1) 事業の特徴としてどのようなものがありますか (具体的に記載)。

・高齢期の暮らしの選択肢を広げる。

最終的に施設へ入所するか自宅で単身生活を続けるかの二者択一ではなく、新しい第3の高齢期の生き方を具体的に提示する。

・自立の維持及び介護予防。

他人同士でも家族のように暮らし喜怒哀楽を共有することで孤独に陥ることなく、他人同士であるが故の適度な緊張感は精神を活性化する。この暮らし方が心身の自立を長く維持することは、グループリビングの先達である「COCO 湘南台」などの事例によっても明らかである。加齢による自然な身体機能の衰えは不可避であるが、精神的な不安が発症の一因と考えられる認知症の発症率は抑制できると考える。

・見守り効果

プライバシーを尊重しあいながらも互いを思いやる関係が醸成されることにより、緊急事態への迅速な対応が自然に可能となり高齢者にとって大きな安心感となる。

・尊厳ある生活

グループリビングは第2の自宅である。したがって他の生活者の暮らしを乱さないための節度と配慮は要求されるが規制はなにもない。一人一人が自分らしく元気に暮らすことが目的であり高齢期にあっても自己実現を図りつつ生活できる。長い人生経験により培われた豊富な知識や技術を社会参加することで次世代へ継承することも可能である。

・家族・親族との良好な関係づくり。

単身者が元気に暮らしていることを何時でも確認できることは、その親族たちにとって何よりも喜ばしいことであり、育児や仕事をもつ居住者の子供世代の生活に精神的安定を与える。医療制度や介護制度が自宅でのサービス提供を推進しつつある中で、核家族が一般的となった現代においては、将来の介護問題は子供をはじめとする親族にとって避けられない重圧であるが、その不安感を払しょくできることにより親子・親族の人間関係は良い状態を保つことができる。

・医療制度や介護制度の効率的活用

高齢期は加齢と共に病気や身体的機能の低下のリスクが高まる。当法人が三鷹市内の訪問医師や訪問看護師及び訪問介護事業者と連携することにより居住者は安心して医療やサービスを受けることが出来る。他方、医療制度や介護保険制度の提供者にとっては、経費節減の効果が期待できる。

・高齢者をターゲットとする犯罪の抑止。

今後高齢者に関わる犯罪はますます巧妙化し増加するものと考えられるが、居住者同士の日々の会話や当法人への相談によって被害を未然に防ぐことができる。

(2) (2) 入居者の生活環境の変化等により、各世帯が協力して生活することが困難となった場合、どのように対応しますか。

・グループリビングは、自立と共生が基本理念である。比較的新しい生活の形であるので、入居希望者には、まず丁寧に説明することで理解と認識を深めていただかなければならない。共に生活するうえでは、十分に意見を述べ合いおりあいを付けて生活することが肝要で、月に1度程度は全居住者に当法人の理事をはじめとするスタッフが参加するミーティングを行う。また、互いの人格を尊重しあい親密な人間関係が構築されるまでは当法人のスタッフが毎日交代で居住者の生活全般の見守りや助言を行う。

・例えば、認知症を発症した場合には、当法人のケアマネージャーや介護福祉士の資格を持つ会員が、病状の進行を遅らすためにご本人・家族・親族・後見人などと相談の上で近隣の医師と連携して適切な対応を行う。介護度が進んだ場合には、家族や親族・後見人等と相談のうえで介護施設へのスムーズな移転入所をサポートする。

・他の病気の場合も当法人が連携する地域の医・看・介護と緊密に連絡しあい、ご本人の希望を尊重した対応を行うとともに、共に生活する居住者たちが精神的な支えになるであろう。また、ご本人が希望し居住者たちが同意する場合は、「グループリビング」でのターミナルケア・看取りも行う。

・経済的な変化によって生活が維持できなくなった場合は、当法人がご本人を交え自治体や社会福祉法人などと相談のうえで無理のない生活選択をしていただくが、それまでに「グループリビング」で培われた信頼関係が持続できるように配慮する。

・性格的な問題で共同生活が困難な居住者に対しては、ミーティングの場で十分な話し合いをおこない、その合意結果をふまえて去就を決めていただく。当法人が単独で退去などを決定・通告することはない。

(3) 周辺コミュニティ（自治会、町内会等）との協力関係の構築にどのように関与しますか。・自治会及び町会に対しては、当法人及びグループリビング生活者が会員として参加し、各種行事や会合に積極的に協力し、この新しい暮らしの形への理解を深めていただくよう図ると共に、商店会や町会の活性化に寄与出来るよう協働の理念をもって良好な関係づくりに取り組む。

・また、近隣には高齢者世帯が少なくないので、「グループリビング」の共用部分を利用したオープンな茶話会や手作り品のバザーへの呼びかけなどを行い、時間をかけた自然な交流を心掛けつつ様々な情報提供につなげることで高齢者のかかえる多様な問題軽減の手助けができるよう努める。